

コーチゾン(第1回200mg, 第2回同上, 第3回100mg), ネオミノファゲン5cc静注を開始した。コーチゾン注射1回にて下熱, 第2回注射後, 白血球数は2600から7600に急激に増加し, 種別鑑別困難ではあるが, 顆粒白血球の出現が認められるに至り, 更に第3回注射後, 中性多核白血球は正常数となり, 同時に単核球の著しい増加(15%)が認められ, 紅斑も亦急速に消褪した。

本症の本態は依然として不明であるが, 使用した抗生物質の量と本症の重篤度との間には一定の関係があるように見える。症例1に於ては使用Pn.量は220万単位であり, 症例2ではPn.40万単位, C.M.2gであつた。治癒した症例2は私がこれまでに経験した症例の中では最も軽症ではあつたが, コーチゾン使用が奏効したことは否めない。これ等の点よりすれば, 本症は菌交代症と考えるよりは寧ろ抗生物質による二次的刺激作用と考える方が妥当かも知れない。

#### 60. 三度び, 術後紅皮症について

霜田俊丸(菊山病院)

最近, 又本症に遭遇した。患者は51才の男, 十二指腸潰瘍が胆嚢に穿通しており, 胃切除と同時に, 胆嚢剔除を行つた。術後は経過良好であつたが, 2週間目に発疹, 発熱をおこし, 白血球が3200となつた。しかし, コーチゾンを併用したら, 熱も下り白血球も正常となり, 発疹も消褪した。1週間後に治療を全部中止したら, 翌日から又, 発熱, 白血球減少(最低1500)をおこし, 今度はあらゆる治療も効果なく, 遂に鬼籍に入つた。手術後28日目である。この経験により, コーチゾンがある程度の効果のある事が判明した。

#### 61. 植竹病院に於ける蛔虫症対策

植竹光一, 宮部政勝(植竹病院)

戦中終戦時に比し蛔虫寄生率は漸次下降しつつあるとは云え, 未だ非常に高率にして蛔虫症対策について慎重なる態度を要する。他医にて診断加療を受け症状軽快せず来院, 当院にて蛔虫症の診断の下に治癒せしめた158症例をもとに当院に於ける蛔虫症対策を発表, 多様な他医診断は蛔虫症症状の複雑多岐なるを示し, 特に腹部症状患者には先ず蛔虫症を考慮すべきである。当院に於ける蛔虫症対策は一言にして云えば徹底せる検便徹底せる駆虫にある。即ち上記症例に於て只1回の検便駆虫による完全駆

虫率は40%以下であり, 只1, 2回の検便にて, 虫卵(一)即ち寄生虫体(一), 只1回の駆虫にて終る事は危険である。当院に於て胃腸疾患患者に通院に際し毎回必ず糞便を持参せしめ, かかる啓蒙により始めて完全なる蛔虫症対策が為されるのであり, 又医師としては検便をもつて治療の第一歩と為すべきである。尚治療を兼ね, 駆虫剤投与直後の検便に高率の虫卵発見を見, 虫卵誘出法として推奨する。

#### 62. 前頭洞骨軟骨腫の1例

赤沢喜三郎, 石倉武雄(順天堂医大)

15才女, 約1年前より前頭部に骨様硬の小腫瘤が出来, 何等自覚症はないが徐々に腫大し超クルミ大になつたので本院外科を訪れた。眼科, 耳鼻科の諸検査で特記すべき変化を認めない。レ線所見により前頭洞の骨腫と診断, 腫瘍の剔除術を施行したが, 手術はやゝ困難であつた。ムコツェーレを併発していた。病理組織学的には骨軟骨腫であつた。

#### 63. 常習性便秘症の外科的治療

今井五郎(横浜医大)

頑固な常習便秘は器質的变化に機能的障害が加わつて永年変化してきたものが多く治療は困難を極む。

私は昭和24年以來7年間に39例を手術的に治療し著効, 効併せて98%の好結果を得たので報告する。

統計的観察: 第1表の様に男13例女26例で20才代が最も多く, 外科的治療を希望するものもこの年代が多い。

手術々式は第2表の如くで以下この術式につき症例を順を追つて述べる。なお, 治癒率については第3表の如し。

1. 腸間膜癒痕が主因と思われたものはこれを切除して効があつた。

2. S字状結腸過長が主因と思われるものは上部下腹神経叢切除(以下神経叢切除と略す)これによつて下部結腸の緊張増進と蠕動亢進をはかることにより著効を得た。その成績は第4表に示す。

3. S字状結腸過長と虫垂自身又はその周囲に変化あるものは神経叢切除と虫垂切除を行い第5表の如き結果を得た。

虫垂炎による腸管への機械的影響と共に岡氏も云う通り, 虫垂炎併発により絶えざる交感神経刺激による腸運動緩慢も便秘の一因となると思う。